寛永諸家譜

大蔵氏　秦氏
清川氏　坂上氏

170

内閣文庫
番號　和　20199
冊數　186（170）
函號　特　76　1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

大義姓
秋月
秦姓
川勝
清川姓
野源
鳥殿
坂上姓
田村

寛永諸家系図伝

大義姓
秋月

河内
後漢孝靈皇帝乃孫なり

三貴
又河内信也名字来高となり

浅草文庫

女胡阿倍信子　信を紀貫使とし
号を大臣子　紀をられ齊明天皇
乃冠とふつまるまこと三人をむめる
其中子志摩亜毋波國子生長
一大義乃妃と生まふる事
ふる数代氏族振ひて
延暦四年六月坂上田麻呂
上表していく信濃坂
漢灵帝此皆孫阿智の坂を

漢祢親子阿智神牛此
をしへ出く帝方を
牛ちちの京帝の場をはちち
ちちの家塚に
國邑をそくその人民と養ひ
そつ乃ちち父兄をめていく
新安東國子智をあ阿ぢお
もむきそこ
くけ北子　居ば恐くハ霊滅ち男

母方姓氏をとゝび七姓乃氏と撰人
く東胡をおれたる蓋田て留
乃海字をおくて
養しくいたゞ回居常方て
ゆて人民男女みな七歳ゆたちくハ
百海言麗乃間て張富ていよ
物論をしぐきいまぐ方を至とろを
ちて決姉く称ぐくハ天皇使を
ぐいり遠くおれをめ給へる

ちち勅しくたい脇氏をぐいり
頭をるく後遣をて乃人男女の
うて使て志
公民をなる年
今ているは
乃高漢人をまくおれ一をなる
たる前田麻呂先祖乃を族をう
なひ下人乃早姓をふるのぞ
みふ忌すとあくめく宿禰の姓

と申まうすを俗く称ずるを
天思ひのそれを悪しく申賀能
とそれ結ぶ[illegible]
あてうふ枯木ふてびさつん[illegible]
苅田麻呂等ふ[illegible]乃詔ふ申ぞ
詔ぐく表と申てまうく叡聞よ
遠と　帝ふおれとゆふ結ひ坂上
田義平田大義文調丈部若民作
大山口等愚寸乃十姓十六人宿禰

姓と申まふひ百数代中級

春宴

射馬当
朱雀院乃渉宇天皇三年庚子
五月三日錦乃渉猟天国乃賜物と
申面ふ逆臣純友と追討と其
勲功ふ和泉乃軍と申

種光
長門守

種材
丹後守 大宰大監

種弘
大宰大監

種資
長門権守

種生
大宰大監

種成
太郎太夫大宰大監 岩門権守と号し
岩門が郷といふ一説種亟に
なして
寿永二年筑紫郡蔵乃助安遠
を従わしめ筑紫へ下向
種成の嫡子を太宰府に居て
種成の嫡子を

よろしく種成数度合戦して
忠をつくして平家沈没乃ちその
罪をかうむりまつりて官職を解し
所領を没収せられたてまつり
筑前国夜須郡秋月乃庄を
たまふ

種雄

秋月三郎

廿三代秋月乃跡をつゞくこれは
居をさだめこれ秋月の祖なり

種幸

秋月太郎

種家

三郎

種頼

左馬尉

種貞

太郎

種貞

小右衛

種弘

左馬尉

種道

筑前権守

種忠

長門

種氏

左馬尉

種照

中務少輔

種朝

中務大輔

永正年中ヨリ将軍義稙細川

右京大夫政元ヲ滅シ国政ヲ

恣ニシテ大内介義興ガ居城ヲ入

時ニ細川政元和泉ヲ乃ちに義稙
上洛あるを大内方もまた上京し
ちゝ義興乃こと共同ニ中
国九州諸訊を時ニ少貳大友筑
前の三家ハ[illegible]とたゞうう
秋月城を攻落胡古恵城を
出嫁ニ[illegible]一戦をつゞく三家
数万の兵を使ひ[illegible]二千余人
をうち死軍敗北を

種時

中務太輔

天文年中ハ貳筑前守筑後国中
の兵を率して秋月ハ城内をこゝを
めとり種時兵を發して下毛郡一
末原ニ[illegible]合戦し大利を
[illegible]千余人を討敵軍敗北を

種方

中務太輔

永禄元年大友宗麟に生捕てうち死

晴種

太郎

天文年中義晴の御書を

賜りて勤仕の忠貞を感じ使

節を種方に許て晴乃字を

賜る太郎ゆえ故に晴種

と名ずく十九歳にして死

種実

筑前守

初永禄元年大友義鎮数万の兵を

もつて秋月居城古所山をせめ

んとて種方城を攻せ戰て利を

うなひ其場なりとひとしくうち死す
郎従等種実をともなひ周防乃山口
にかくれ三年の後方々流浪の郎
従相集古所山を襲とりかへしぬ
城郭をかまへ大友が在番乃兵をうち
殺しまた馬見山をせめ取て種実
を周防より迎へて古所山の城に
ゐる大友兵をおこして戦といへども
勝利をゑず種実かちにのり筑前の

内夜須郡上座郡下座郡嘉麻郡穂波
郡鞍手郡筑後の内生葉郡竹野郡
三原郡三潴郡豊前の国田川郡の内岩
石の城十一ケ所を領知せしめ後入道
して宗閑と号す　法名笑翁

種長

長門守

天正十五年三月朔日秀吉九州を

せんぐこめ出馬あつて合戦数度を
もつて一方の大将は中国四国の
兵共を引ひかへ日向口と攻落摩場ハ
本陣秀吉吉兵衛お国河原に陣
取四月朔日秀吉みづゝ岩石乃城
をもむき波乗ものを秀吉とりつく
大将は蒲生苅藻とりつく大
乃先鋒乃ハは前田肥前とと
くるめ乃大ハは四方より四
攻上ゆゑ防ふとい人ども是より
寄為さる秋月が家老ハ城乃
兵数百人ばかりうち死して
翌日秀吉陣を移実ゞ居城筑前
国麻那大濃乃兵
羽柴左衛督殿正ゞ弼を彼
とりつく先陣は使節と吉兵
をもつて世くいたく賛父子
くゞ宮中まいるよとなく

殺害すべしと法印をみな使をくた
つく天満宮へ参詣つぎ
日三日種実種子たちまち大隅乃
芸州へ参り京良志羽乃肩衝
をもつて国後乃ふくを献ぜ小
をもつく出て安芸と申す古
所山へ四日出日種長父子古所山を
ふ江刑山へ移る古所ハ生駒
雅楽頭ふれをまつ出ふ出

小城二十ヶ所を破却を秀吉陣を
肥後へうつ芸薩へ入ると
種長父子先陣へくゝられ薩摩
へ入九刑平貴を秀吉長門の国下乃
開へ出さ数日逗留をく朱印
を九刑乃法士へ出ます種長は対
日向国児湯郡賊城を出ます
文禄元年三月秀吉朝鮮へ渡
種長も利を波へ渡海

黒田甲斐守と申つく三番乃将ニ成
二万五千人先手加藤小西と一日が
ちがい先陣し江原道とまいつく
成ル八月中旬平壌ニ陣取
ひかしくひしく城を山中ふにおく
豊臣秀長あまたく寄もとめく城を
父子を生捕これを獻を
文長二年朝鮮ハ蔚山舟数百艘
を出し一日中乃兵をさへこさりこむ

七月十五日京畿乃迫門ニ
船軍あり加藤左馬助殿先陣
ニ成ハ法ハ不ル船を
秀吉船三艘を
日を八月一日全羅道ニ乃毛利
宰相殿ニ晋州乃城を
秀吉自分先ん案しく数しこ
こ乃ハ舞数二千五百余ハ
乃ち毛利宰相と同所乃

城番を勤相詰居る事七年
間能く忠を上候て
同四年乃夜
東照大権現はいまを幸為て国
ゝゝ入る
同五年辰九月乃頃ハ
石田三成ゝ属て種長をもび為
相良濃州大垣ゝ
九月十八日関原合戦其日小野
日向守大垣乃城を出種長為
相良ひゝゝ謀くいゝく城を福原
并進谷垣見木村を殺し城を
降参ゝ志いゝく赦免をゝ
さんや帰日使をもつく計謀を
つぐ日向守松平丹波守切乃をゝ
なゝん事をゝ
をゝこゝくゝく物を
さぐむ十八日ハ
垣見和泉守進谷内義元木村地蔵

父子四人ガ首ヲ献ズ日向丹波守殿
来乃ごとく旗を立二三乃丸ヲ入
急ヲ本城ヲ攻む日向人ヲ
いそめていく加野ヲ
ふしく御系せず安坂ヲ中べ
梅系ヲ自ちかて野ヲ
城ヲ出て言野山ヲ通る稚春橋
相良ヲ迷乃切ヲ
安坂ヲ

稚春
長門守
文長十八年十一月晦日ヨリ歳ノ
江戸ヲ下向十二月九ヨ
ヲ
大稚現ヲ謁見ヲ

同十九年江戸ヲ
法名雄山院業
病死

同二十日

台徳院殿ゟ御代々
之歳ゟ之御暇を継ぎ大坂乱
をこゝ為御をを
御多仕渡ゟに属し為度乃軍役
をつとめ

寛長十八年ゟ寛永元年ゟ
いつゝまで十二年乃あひだ江戸小
屋住しゝ代の八月

将軍御出陣を者ゟ紀州馬を拵
給ふ

同三年二条乃城ゟ行幸のとき
従之位下ゟ叙し長門守ゟ任ず

叙乃位 官爵 漢和ゟ為来ゟ
者ゟ用ゟ位ハ 極子花錦の袍
位をもつゝゟ

国立公文書館
National Archives of Japan

秦姓

河勝

仲哀天皇八年丁秦乃始皇
此好流切酒を造めて朝に
奉る乃子軍通を秦乃
弓月君号て應神天皇高
丁百姓を引率て来る生組
玉帛乃志賀くを奉る

天皇ことを聞しめす仁德
天皇乃御宇に秦氏を
めしてく秦之氏を雄略
天皇乃御宇になつけて富部
姓といふ乃ち川勝は
て小德位大花上にいたる
聖德太子ゆく末を深
き考つてまことに秦の造こ
れを秦氏を称とまた成

河勝とゆく氏也

●廣澤○

秦乃始皇十世乃孫
彭祖也

●東

巻絹也　丹波國乃住人

系

常陸守　生国摂津　法名道源

継氏

権頭　生国同じ

源乃義輝　法名

大権現　つくしにて

寿長七年七十二歳にて死

法名永運

秀氏

永正　生国同じ

義輝　法名

大権現　とそび

白浜院殿　法名

寿長十二年にて死

九十三

知氏

加賀亮　生国日向

元和二年ニ病死ス

重氏

右同家　生国日向

寛永八年ニ死

大橋現ニ在ツ

政氏

高嘉　生国摂津

寛永九年ニ死

将軍家ニ仕ヘ

出番ヲ勤ム

重氏

勤嘉　生国丹波

文長十九年ニ成
台徳院殿ヲ江戸ニ参て居
同年乃冬大坂渡津の儀
ニ
望ミの為ニ
松平丹波守組ニ
為ヲ江戸
加番ニ
元和九年ニ成
将軍家ヲ江戸ニ
参ル

長氏

三郎
生国武蔵
寛永十年ニ成
将軍家ヲ江戸ニ
参て
同七年ニ出羽ニ
加番ニ成

廣綱

丹波守
生国丹波

[illegible]秀[illegible]
位下ヨ叙シ冊波[illegible]ヨリ[illegible]
大相撲とゝび
右法院敏
将軍家ヨリ[illegible]
仰命をうけ[illegible]て法使番
をしゝむ

廣当

右京進　指別[illegible]
卑世

廣明

又兼
寛永十六年
将軍家ヨリ渇シ[illegible]
同十七年[illegible]書院番をつとむ

廣重

門記

生國武蔵江戸

家乃紋打板

奉

鳥居

先祖紀州熊野新宮七人の者

者乃孫也

長持

三郎　生国三河

今河義元氏主家三刑

和乃郡乃城主

法名日東

長照

彦太郎　生国日向
父乃おとと継ぐく氏長様下
筑後　西北郡　没筑の国筑後
法名空紀

氏長

三郎　新七郎　石見守　生国日向

幼少ゟ
大樹様ゟ法之御書
あり
寛永元年　七十六歳ゟ卒
法名日紀

氏信

新七郎　生国日向
将軍様ゟ法之御書

祖父市郎の地子七百石御
下賜
御扶助のうちに三石畳

十郎三郎

鵜飼

家傳ハいとく先祖紀州熊野
乃別當湯浅党ノ末流なりと
先世代ニ別而乃那柳原ノ
住ス

長也

嚴助

大檜現存して生て居る

長次

大隅守

右法院殿存して生て居る

大御番乃組頭なり 法名日愛

長堯

嚴堯

大檜現存

右法院殿存して生て居る

寛永十八年六月病死

廿十三 法名日祐

長重

彩三郎

将軍家ニ仕ヘ奉リ候
小性組乃組頭ヲ乃ち
沙汰ヲ受ケ申候

長重

八島太郎
右流鏑馬ニ仕ヘ奉リ候

長俊

長盛

将軍家ニ仕ヘ奉リ候

長義　生母武義

長好

新三郎

長興

大学　生母同人
寛永四年

将軍家より拝領いたされ候
日九郎より出羽とはいたむ

長寛

義朝

寛永七年より
将軍家へ上り人ニてまいり
家光公より九のうちより三石遣

清川姓

野際

京人正六位上屋敷ハ津ハ朝ニ
清川忌寸姓をもつて清川乃
流元さいく義朝後すゝ故ニ
世系ていすゝ

●朱

越前守　中國尾張

成宣

大橋現ヲ以人参ル事

法名交用

成元

源三郎　生国　山城伏見

元和三年ヨリ

台徳院殿ヲ以人参ル

寛永九年

将軍家ヲ以人参ル

家乃紋九のうち小菊二

国立公文書館
National Archives of Japan

坂上氏

田村

右漢霊帝の苗孫阿知王より始まる

坂上田村丸乃末流又別に田村麻呂

長業

長傳

安栖

小笠原つぶ小田原没落のち
大稽現ゝ法人生てまつる
亜右
生兵衆
大稽現をもび
右法院殿ゝ法ふまれる

亜久
衣笠　生国武蔵

寿長十一年
右法院殿ゝ法人生てまれる
大坂南陣ゝ法者
寛永八年ものち
将軍家ゝ法人生てまつる

亜久
太郎兵衆　生国日向
寛永十二年

将軍御部屋へ出入仕候面

長順

安栖

大猷院様御代

台徳院殿へ出入仕候

栄

笠原孫六

笠原氏乃先祖

早世

栄

田村才二

台徳院殿へ出入仕候

長有

安栖

台徳院殿御代

将軍家より仕へ来れる
安栖代くの系図長屋警家の沿
りに仕まつれる

長衛

田村助左衛
白川院殿をよび
将軍家より仕へ来たる

幕乃紋丸のうちに梅鉢円

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan